

エコアクション21

環境経営レポート

対象期間:2018年4月～2019年3月



発行日 2019年 7月 1日
作成者 飯塚 宣人

目次

| | |
|------------------------|-------|
| 表紙 | P1 |
| 目次 | P2 |
| I. 会社概要・事業内容 | P3 |
| II. 環境経営方針 | P4 |
| III. 環境経営活動実施体制 | P5 |
| IV. 環境経営目標 | P6 |
| V. 実績 | P7 ~ |
| VI. 次年度の活動計画 | P12 ~ |
| VII. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無 | P14 |
| VII. 代表者による全体評価と見直しの結果 | P15 |

I. 会社概要・事業内容

(1) 事業者名及び代表者名

日本包装システム 株式会社

代表取締役社長 池畠 正英

(2) 所在地

本社工場 〒379-2153 群馬県 前橋市 上大島町 182

共同工場 〒379-2154 群馬県 前橋市 天川大島町 1310-4

(3) 環境管理責任者及び事務局

EA-21責任者： 管理部 飯塚 宣人

EA-21事務局： 管理部 小宮 由香利

連絡先 TEL： 027-261-4455

FAX： 027-261-4456

E-mail： n.iiduka@nhs-1972.co.jp

(4) 事業活動の内容

紙製容器・包装資材の開発、製造および販売

(5) 事業規模 (2018年度)

主要製品の生産量： 1080 t

売上高： 616百万円

資本金： 6,000万円

従業員数： 46人

延べ床面積： 3,715.03㎡

(6) 対象範囲 (認証・登録範囲)

上記 (2) に該当する所在地と (4) に該当する活動内容

II. 環境経営方針

環境経営方針

日本包装システム株式会社は、私たちの未来のため、
循環型社会の実現と環境負荷の低減を推進します。

1. 当社は事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、環境目標・環境活動計画を定め全員参加で継続的な改善に努めます。
2. 環境関連の法令、規制を遵守するとともに、行政・団体・地域との協力体制を確立します。
3. 当社は環境に与える影響を考慮し、次の事項に対して優先的に取組みます。
 - ① エネルギー使用量・水資源使用量の削減
 - ② 廃棄物の削減とリサイクルを目的とした分別回収
4. 当社は文化的生活の向上と環境負荷低減の両立を目指し、安全で効率のよい生産活動を追求します。
5. 社会の一員として環境保全に関する啓蒙・啓発に努めます。

この環境方針は当社全従業員に周知徹底するとともに、一般に開示します。

2009年4月1日
改定日 2016年4月1日
改定日 2018年4月1日

日本包装システム株式会社

代表取締役社長

池島正英

Ⅲ. 環境経営活動実施体制

| | |
|---------|--|
| 代表者(社長) | 1. 環境経営方針の策定 2. 経営資源の準備 |
| 池畠 正英 | 3. 代表者による全体の評価と見直し 4. 環境経営レポートの承認 5. 環境目標及び環境経営活動計画の承認 |

| | |
|-----|-----|
| | 人員 |
| 一般 | 35 |
| パート | 11 |
| 合計 | 46名 |

2018年4月現在

| | |
|----------|--|
| EA-21責任者 | 1. EA-21システムの確立、実施推進、維持管理 2. 環境への負荷及び取組への自己チェックの実施 3. 環境経営目標及び環境活動計画の策定 4. 環境経営レポートの作成 5. EA-21に関する実績把握と報告 6. EA-21環境経営マニュアルの作成 |
| 飯塚 宣人 | |

| | | | |
|------|------|-------|--------------------------------|
| 対象範囲 | 本社工場 | 相川 利明 | 1.環境経営活動計画の策定と実施 2.問題点の是正処置 |
| | 営業部 | 小貫 敦 | 1.環境経営活動計画の策定と実施 2.問題点の是正処置 |
| | 管理部 | 森 克美 | 1.環境経営活動計画の策定と実施 2.問題点の是正処置 |
| | 総務部 | 高橋 正利 | 1.環境経営活動計画の策定と実施 2.問題点の是正処置 |
| | 共同工場 | 田島 和憲 | 1.環境経営活動計画の策定と実施 2.問題点の是正処置 |

| | |
|---|--|
| EA-21委員会 | 1. 環境経営目標及び環境経営活動の結果確認 2. EA-21に関する審議 |
| 委員長：池畠 正英 飯塚 宣人・小宮 由香利・高橋 正利 森 克美・松本 宏志・田島 和憲・中田 純也 | |

| | |
|----------|--|
| EA-21事務局 | 1. EA-21責任者の補佐業務 2. 環境関連法規の取りまとめ及び遵守状況確認 3. 教育、訓練計画の策定・実施（緊急時対応訓練 等） 4. 環境文書及び記録の作成、管理 5. その他EA-21に関する業務 |
| 小宮 由香利 | |

IV. 環境経営目標

当社の環境目標の設定は、2017年度のデータを基準として2018～2020年度の目標といたしました。

| 取組項目 | 2017年度実績 (基準値) | | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|--|-------------------|---------------------------------------|--------|--------|--------|
| 電気使用量の削減 | 本社 | CO2換算 3.07kg/万円 | 1%削減 | 1.5%削減 | 2%削減 |
| | 共同 | CO2換算 2.41kg/万円 | | | |
| 燃料使用量の削減 営業車使用燃料 (ガソリン・軽油) | 本社 | CO2換算 0.15kg/万円 | 1%削減 | 2%削減 | 3%削減 |
| | 共同 | CO2換算 0.90kg/万円 | | | |
| 廃棄物の削減 ① (古紙回収)の削減 | 本社 | 一万円あたりの使用量 4.22kg/万円 | 0.5%削減 | 0.8%削減 | 1%削減 |
| | 共同 | 一万円あたりの使用量 6.30kg/万円 | | | |
| 廃棄物の削減 ② (廃プラ)の削減 | 本社 | 一万円あたりの使用量 0.046kg/万円 | 0.3%削減 | 0.6%削減 | 1%削減 |
| | 共同 | 一万円あたりの使用量 0.046kg/万円 | | | |
| 廃棄物の削減 ③ (鉄・ガラス・その他)の削減 | 本社 | 一万円あたりの使用量 0.01kg/万円 | 0.3%削減 | 0.6%削減 | 1%削減 |
| | 共同 | 一万円あたりの使用量 0.018kg/万円 | | | |
| 水資源使用量の削減 | 本社 | 一万円あたりの使用量 0.010m ³ /万円 | 0.1%削減 | 0.2%削減 | 0.3%削減 |
| | 共同 | 一万円あたりの使用量 0.009m ³ /万円 | | | |
| グリーン購入の促進 | 38品目 | | 2品目増 | 4品目増 | 6品目増 |
| 自らが生産・販売・ 提供する製品、及び サービスに関する 環境目標 | _____ | | _____ | _____ | _____ |
| 化学物質使用量 の削減 | _____ | | _____ | _____ | _____ |

V. 実績

環境目標に対する達成状況は以下の通りです。

- ※1. 実績値は、2018年度運用期間(4月～3月)の1年間と、基準年度2017年度の同月の値と比較する。
- ※2. 前年度まで使用していた排出係数に誤りがあったため、今年度は新たな係数にて算出し直しています。その為、前年度の環境経営レポートと数値が異なっています。
- ※3. 総量は4月から3月の1年間の合計とする。
- ※4. 単位は、売上金額1万円当たりの使用量とする。
- ※5. 購入電力(東京電力)の二酸化炭素排出係数は0.475。
- ※6. ガソリンの二酸化炭素排出係数は2.32。
- ※7. 軽油の二酸化炭素排出係数は2.58。

実績 一覧

| 本社工場 | 2017年度基準値 | 2018年度実績値 | 達成率 | 結果 |
|----------------|------------|------------|---------|----|
| 電気使用量の削減 | 3.07kg/万円 | 2.89kg/万円 | 106.25% | ○ |
| 燃料使用量の削減 | 0.15kg/万円 | 0.13kg/万円 | 102.03% | ○ |
| 廃棄物(古紙回収)の削減 | 4.22kg/万円 | 4.28kg/万円 | 98.46% | × |
| 廃棄物(廃プラ)の削減 | 0.046kg/万円 | 0.042kg/万円 | 109.85% | ○ |
| 廃棄物(鉄・ガラス等)の削減 | 0.01kg/万円 | 0.02kg/万円 | 36.35% | × |
| 水資源使用量の削減 | 0.010kg/万円 | 0.010kg/万円 | 114.86% | ○ |
| グリーン購入の推進 | 38品目 | 36品目 | 94.73% | × |

| 共同工場 | 2017年度基準値 | 2018年度実績値 | 達成率 | 結果 |
|----------------|------------|------------|---------|----|
| 電気使用量の削減 | 2.41kg/万円 | 2.69kg/万円 | 87.36% | × |
| 燃料使用量の削減 | 0.90kg/万円 | 1.01kg/万円 | 89.22% | × |
| 廃棄物(古紙回収)の削減 | 6.30kg/万円 | 6.75kg/万円 | 92.89% | × |
| 廃棄物(廃プラ)の削減 | 0.046kg/万円 | 0.026kg/万円 | 143.28% | ○ |
| 廃棄物(鉄・ガラス等)の削減 | 0.018kg/万円 | 0.01kg/万円 | 191.93% | ○ |
| 水資源使用量の削減 | 0.009kg/万円 | 0.010kg/万円 | 90.00% | × |

主な環境負荷実績(総量)

| 環境への負荷 | 2017年度(基準年) | 2018年度(対象年度) |
|----------------|-------------|--------------|
| Co2排出量(Kg-Co2) | 162,610 | 171,708 |
| 廃棄物排出量(t) | 265 | 255 |
| 水使用量(m3) | 561 | 516 |

電気使用量の削減

| 計画(本社工場・共同工場 統一計画) | 結果 | 次年度 | 評価 |
|--------------------|----|-----|---|
| 取り組み施策の発表(5月) | ◎ | 継続 | 夏場の猛暑対策は改善の余地あり。デマンド監視装置を共同工場でも導入、データ収集開始。 紙皿成型機を新規1台入れ替え。共同工場1階部分を改装、レイアウトの変更で冷暖房効果の改善。啓蒙活動と施策継続の重要性。 |
| 未使用の電気、電源のOFF | ○ | 継続 | |
| エアコン温度の設定 | △ | 継続 | |
| トイレ便座の温度設定 | ○ | 継続 | |
| エアータオル就業時間外の電源OFF | ○ | 継続 | |
| 空調フィルターの定期清掃 | ◎ | 継続 | |
| デマンド監視装置の活用 | △ | 継続 | |

◎良くできた ○出来た △あまり出来なかった ×出来なかった

燃料使用量の削減

| 計画(本社工場・共同工場 統一計画) | 結果 | 次年度 | 評価 |
|--------------------|----|-----|--|
| 取り組み施策の発表(2月) | ◎ | 継続 | 新規車両の入替えなどの効果や、エコドライブ実践の継続により数値は概ね良好。 エコドライブ診断を定期的に実施したい。 |
| 燃料使用量・走行距離チェック | ◎ | 継続 | |
| エコドライブ診断の実施 | × | 継続 | |
| エコドライブ講習会への参加 | ◎ | 継続 | |
| | | | |
| | | | |

廃棄物(古紙回収)の削減

| 計画(本社工場・共同工場 統一計画) | 結果 | 次年度 | 評価 |
|---------------------|----|-----|--|
| 取り組み施策の発表(6月) | ◎ | 継続 | 基準年度比で、両工場共に廃棄量は微増で目標値達成ならず。 トレー部門は年度ごとに生産内容が変わる為、数値に関しては注意する必要がある。 共同工場は数値悪化。生産量と売上金額のバランスの問題が影響。 |
| 新基準指標の検討(歩留り率使用の検討) | × | 継続 | |
| 分別廃棄の継続 | ○ | 継続 | |
| 私物ゴミ持ち帰りの徹底 | ◎ | 継続 | |
| 調整時ロスの削減 | ○ | 継続 | |
| ロスの早期発見と対応 | △ | 継続 | |

廃棄物(廃プラ)の削減

| 計画 (本社工場・共同工場 統一計画) | 結果 | 次年度 | 評価 |
|---------------------|----|-----|---|
| 取り組み施策の発表(8月) | ◎ | 継続 | 分別廃棄は実施出来ている。 廃棄物回収業者より、よく分別されていると評価あり。 しかし、廃棄物減量は課題あり。 ストレッチフィルムに関しては、安全対策と品質対策の為に、一定量が使用されている。 |
| 資源ゴミと一般ゴミの分別の徹底 | ◎ | 継続 | |
| ブランク納品時のプラパレ化を依頼 | △ | 継続 | |
| | | | |
| | | | |

◎良くてきた ○出来た △あまり出来なかった ×出来なかった

廃棄物(鉄・ガラス等)の削減

| 計画 (本社工場・共同工場 統一計画) | 結果 | 次年度 | 評価 |
|---------------------|----|-----|--|
| 取り組み施策の発表(10月) | ◎ | 継続 | 蛍光灯に関しては、社内にて一時保管後、まとめて廃棄に変更。 打抜き加工時使用のステンレス板の廃棄ルールが未設定。 ステンレス板に使用される材質にも種別があるため、廃棄時に分別する。 |
| 木製パレット・木くずの適正処理 | ○ | 継続 | |
| 廃棄蛍光灯の管理徹底 | ◎ | 継続 | |
| | | | |
| | | | |

水資源使用量の削減

| 計画 (本社工場・共同工場 統一計画) | 結果 | 次年度 | 評価 |
|---------------------------------------|----|-----|---|
| 取り組み施策の発表(12月) | △ | 継続 | 本社工場は基準年度よりも数値減少を達成した。共同工場は前年度比で生産量は減少しているのに、実績使用量は目標数値より増加してしまい未達成。 再度、節水の啓蒙活動を強化する必要がある。 |
| 節水継続意識向上の継続 | ◎ | 継続 | |
| 手洗い・糊つぼ洗い時に水を止める。 | ◎ | 継続 | |
| 本社 成型工場、共同 2階洗い場 蛇口レバーを長い形状のものへ変更(検討) | △ | 継続 | |
| | | | |

グリーン購入の推進

| 計画 (本社工場・共同工場 統一計画) | 結果 | 次年度 | 評価 |
|---------------------|----|-----|---|
| グリーン購入品の促進 | × | 継続 | 今年度よりグリーン購入の推進は取り組み対象外となっている為、自主的に取り組んでいる。 引き続き、現行品からグリーン購入品への置き換えとグリーン購入品数の増加に取り組む。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

環境保全取組実施率の向上

① 管理者・従業員の教育

- ・9月3日に全社員で模擬消火器を使用して、消火訓練の取り組みを行いました。
- ・消火訓練後に、パッケージ型消火器 使用方法のレクチャーを行いました。



- ・毎月初日に全社員が集まり、環境に関するミーティング(全体ミーティング)を実施。
- ・更に全体ミーティング内で、生産技術課による技術向上を目的とした取り組みを発表。



<全体ミーティングの一例>



<生産技術課の発表の様子>

- ・アース環境サービス社様による「防虫・衛生・品質関連」の講習
- ・安全・衛生委員会による業務中における事故発生の予防を目的とした取り組みの発表。



<講習の様子>



<安全・衛生委員会の様子>

- ### ② その他、入口に「アイドリングストップ」の表示をして、当社出入りの業者さんに対して環境保全活動の協力依頼をしています。

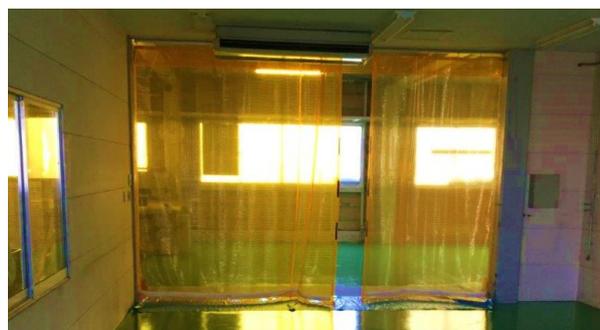
その他の環境への取り組み事例



デマンド監視装置



不使用蛍光灯の電源OFF



共同工場1階部分に仕切り、カーテンを設置



アイドリングストップ看板の設置

★2018年度に行った環境への効果が見込める取り組み★

- ① 昨年度末頃に入れ替えた、本社工場の紙皿成型機1台が本格的に稼働開始しました。
- ② 共同工場の1階部に製函機1台を新規導入、それに伴い場内レイアウトを変更。仕切りやカーテンを設置して冷暖房の効きを効率化する事が出来ました。
- ③ 本社工場のハイブリッド車を1台入れ替えました。

FSC® COC認証の取得

「FSC COC認証」を2018年3月9日に取得し一年が経過しました。その間も世界の環境に対する考え方が日に日に高まり、お客様からの「FSC COC認証」に関するお問い合わせが増えてきています。

弊社も環境に配慮したパルプを使用した製品を生産し、社会貢献を行っていきます。

＜弊社FSC認証情報＞

認証登録番号 : SA-COC-006218
 ライセンス番号 : FSC® C140095
 認証発行日 : 2018年3月9日
 有効期限 : 2023年3月8日



化学物質使用量の削減

定期的(7月・11月・3月)に保管場所と管理方法の確認を行いました。

V. 次年度の活動計画

当社は、環境への負荷を低減するために、以下の活動を実施していきます。

(1) 電気使用量の削減

- ・未使用の電気、パソコンモニタの電源OFF
- ・エアコン温度の設定
- ・トイレ便座の温度設定(夏季：OFF、冬：ON)
- ・エアータオル就業時間外の電源OFF
- ・空調フィルターの定期清掃
- ・デマンド監視装置活用によるピークカット
(季節ごとに1時間毎に数値を測定)
- ・電気管理業者のサポートによる使用電力削減
- ・電気使用量の削減の取り組み発表(5月)

(2) 燃料使用量の削減

- ・燃料使用量・走行距離チェック(3カ月毎)
- ・営業車にエコドライブ支援装置を取付
(支援装置の結果を元に対象者へ講習)
- ・エコドライブ講習会への参加
- ・燃料使用量削減の取り組み発表(2月)

(3) 廃棄物の削減(古紙回収)

- ・新基準指標の検討(歩留り率使用の検討)
- ・分別廃棄の継続(本社工場・共同工場)
- ・私物ゴミ持ち帰りの徹底
- ・不良率の削減
調整時ロスの削減
ロスの早期発見と対応
- ・不良率低減の取り組みを発表(6月)

(4) 廃棄物の削減(廃プラ・鉄・ガラス他)

- ◎廃プラ／鉄／ガラス他 共通事項
 - ・資源ゴミと一般ゴミの分別の徹底
(一般ゴミ内の資源ゴミ混入防止の徹底)
 - ・廃棄物の削減の取り組みの発表(8月)
- ◎鉄／ガラス他
 - ・使用済み蛍光灯の廃棄・管理の徹底
 - ・ブランク納品時のプラパレ化納入の依頼を交渉

(5) 水資源使用量の削減

- ◎本社工場
 - ・節水継続意識向上の継続
(手洗い・糊つぼ洗い時に水を止める)
 - ・成型工場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更検討
- ◎共同工場
 - ・節水継続意識向上の啓蒙啓発
 - ・2階手洗い場の蛇口レバーを長い形状のものへ変更検討
 - ・水資源使用量削減の取り組み発表(12月)

(6) グリーン購入の促進

- ・グリーン購入法に対応した品物の購入の継続

(7) 環境保全取組実施率の向上

- ・毎月1日に全体ミーティングにてEA21の取り組み発表や環境教育等を実施
- ・アース環境サービス社様による「防虫・衛生・品質関連」の講習を予定（7月）
- ・避難訓練「地震による避難訓練」（9月）
- ・緊急事態対応訓練の実施（11月）
- ・施策の成果と反省（3月）

(8) 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境目標

- ・新製品の設計を行う際に効率的で無駄の少ない割り付けを心掛け、原紙のロスを軽減します。
- ・新製品を生産する際に、環境に配慮した材質、リサイクルが可能な材質の使用を心掛けます。
- ・廃棄物の削減の施策として挙げた、新基準指標の検討(歩留り率使用の検討)

(8) 化学物質使用量の削減

- ・保管と管理の確認を定期的に行います。

VI. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社に関連する主な法規制は下表の通りです。
 また、関連法規制の遵守状況確認を毎年2回実施しており、違反はありませんでした。
 地域住民からのクレームもありませんでした。
 同様に関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありませんでした。

| 主な適用法規 | 当社の対応 | 遵守状況 |
|--|---|--------------------|
| 廃棄物処理法 循環型社会形成推進基本法 群馬県環境基本条例 群馬県の生活環境を保全する条例 前橋環境基本条例 | 廃棄物の削減 廃棄物の適正処置の確保 産業廃棄物保管基準遵守 廃棄物の飛散・流出・地下浸水の防止 産業廃棄物処理委託基準の遵守 産業廃棄物の委託契約書の記載事項の遵守 産業廃棄物管理票の管理義務 | 遵守確認済 |
| エネルギーの使用の合理化に関する法律 (省エネ法) | エネルギー使用量の合理化義務 | 遵守確認済 |
| 特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法) | 廃棄時の引き取り業者への 引渡し料金の支払い | 本年度廃棄無し |
| 消防法(危険物関連) 前橋市火災予防条例 | 少量危険物貯蔵所設置の届出 基準在庫管理 | 基準在庫以下確認 廃止届け提出 |
| 大気汚染防止法 ダイオキシン類対策特別措置法 群馬県生活環境の保全等に関する条例 | 規制基準の遵守義務 | 規制基準以下の 為、適応外 |
| 容器包装リサイクル法 | 毎年度、その生産量に応じて 再商品化義務量の再商品化 | 遵守確認済 |
| 下水道法 | 排水基準の厳守 | 排水基準量以下 確認 |
| CSR(社会的責任)調達 (トッパングループ) | エコアクション21に適応 | 遵守確認済 |
| 産業廃棄物管理表(マニフェスト)に 関する報告義務化 | 産業廃棄物管理表交付等状況報告書の記入 産業廃棄物管理表交付等状況報告書の提出 | 6月提出済み |
| 騒音規制法 | 特定施設設置届出書の提出 | 遵守確認済 |
| 振動規制法 | 特定施設設置届出書の提出 | 遵守確認済 |
| フロン排出抑制法 | 該当設備を管理者により定期点検 廃棄時の回収業者への引渡し | 実施済 本年度廃棄無し |

Ⅶ. 代表者による全体評価と見直しの結果

合併して5年という節目の年になりました。

売上高は前年とほぼ同じでしたが、内容には変化があり生産数量は減少傾向でありました。生産品目別のエネルギー効率の違いなども今後とらえていかなければならない項目だと感じています。

今期は営業用ハイブリッド車の更新やスマートフォンを利用した新しいネットワークづくりなどに取り組み、合理化を目指しています。期の後半には共同工場の1階部分のリニューアルに着手し新たなタイプの機械も導入致しました。昨年度導入の紙皿成型機同様、生産効率の向上が見込まれています。

また、全国的に働き方が見直される中で、基準や運用ルールの変更などもあり、稼働時間が削減傾向になっていることは評価できると思います。

パッケージ関連の脱プラスチックの動きが大きくなる中、「紙」を原材料としている当社の製品は色々な役割を担っていると感じています。これらの製品を更に効率よく生産し、環境負荷低減につなげていくことが必要であります。

代表取締役社長
池畠 正英